

医学教育用語

共用試験

臨床実習開始前の学生の評価のための総合試験。全国の医学部で問題を共用するため共用試験と呼ばれている。知識と問題解決能力を評価するコンピュータを用いた多肢選択形式試験(CBT)と、技能・態度を評価する OSCEがある。平成 17 年度より全国医学部で本格実施されている。

※平成 17 年度から第 4 学年では共用試験 (CBT) に合格することが第 5 学年への進級要件となっています。

クリニカル クラークシップ (clinical clerkship)

指導医の下で、チームの一員として臨床に参加し、責任の一端を果たしながら医師の業務・役割などを臨床の現場で体験学習するもの。これからの臨床実習はクリニカル クラークシップ形式で行われる。

形成的評価

学習目標を修得しているか否か、もし修得していないなら、それを修得するために何をしなければならないかを判定するための評価。学習方法・教授法などを改善するために、学習者や教員・カリキュラムなどへのフィードバックを目的として行われる。

コア・カリキュラム

医学生が卒業までに学んでおくべき必須の学習内容を精選し、標準化した「医学教育モデルコアカリキュラム」のこと。内容は「〇〇学 ology」の壁を取り外して統合カリキュラムの形で書かれている。

総括的評価

達成された学習成果の程度を総括的に把握し、成績判定・合否決定などのために行われる評価。科目を終了した時期に行われる期末テストのほか、卒業試験や医師国家試験なども含まれる。

テュートリアル

PBL (Problem-Based Learning)-テュートリアルと呼ばれることが多い。少人数のグループで討論しながら問題を解決しつつ学ぶ学習方法である。従来の講義型教育が teaching なら、テュートリアルは学生が主体の learning といえる。

臨床研修

医学部卒業後の臨床医としての訓練を指す。2004 年 4 月から 2 年間の臨床研修が必須となった。研修マッチング (研修医と研修病院の希望を踏まえて、一定のルールによりコンピュータにより組み合わせを決定する) により臨床研修を行う病院が決定される。

CBT (Computer-Based Testing)

コンピュータの画面に向かって受ける試験。単に試験用紙をコンピュータ画面に置き換えただけではなく、コンピュータが持つ能力を利用して作成されている。共用試験はこの方式を利用する。

GIO (General Instructional Objective) 一般目標

学習終了時に期待される成果（何のために、何ができるようになればよいか）を示したもの。主語を「学習者（学生）は」として表現している。

MCQ (Multiple Choice Question) 多肢選択試験

多くの選択肢の中から、問題で求められている肢を選ぶことにより回答する、客観試験の一つの形式。日本の医師国家試験は、MCQ形式で行われている。

OSCE (Objective Structured Clinical Examination) 客観的臨床能力試験

オスキーとよばれる。学習者の臨床能力を客観的に評価する試験。ステーションと呼ばれる多数の小部屋に準備された課題をローテーションしながら、時間内に解決していく方法をとる。

SBOs (Specific Behavioral Objectives) 行動目標

学習者が一般目標(GIO)を達成するために、どのようなことをできるようになれば良いのかを具体的に示したもの。GIOと同様、主語を「学習者（学生）は」として表現している。

※「講義内容・日程」の到達目標文頭の○△▲印について

到達目標は「医学教育モデル・コア・カリキュラム」に示された到達目標を以下により分類している。

「医学教育モデル・コア・カリキュラム」の到達目標の中で

- ① 無印の項目（臨床実習前までに習得すべき項目）は○印
- ② *印の項目（卒業時までに習得すべき項目）は△印
- ③ 記載の無い項目は▲印

(例)

回	月日	曜日	時限	講義内容	到達目標	キーワード	担当者
1	*月*日	木	1	脳死の病態・生理	○死の概念と定義や生物学的な固体の死を説明できる。 ○死生学の基本的な考え方を概説できる。 ○尊厳死と安楽死の概念を説明できる。	1. 脳ヘルニア 2. 切迫脳死 3. 脳死 4. 脳幹死 5. 全脳死	○○
2	*月*日	木	2	脳死の社会的意義	○植物状態と脳死の違いを説明できる。 ▲臨床的脳死を説明できる。 △脳死判定基準を列挙できる。	1. 死 2. 臨床的脳死 3. 脳死判断 4. 法に基づく脳死判断	○○